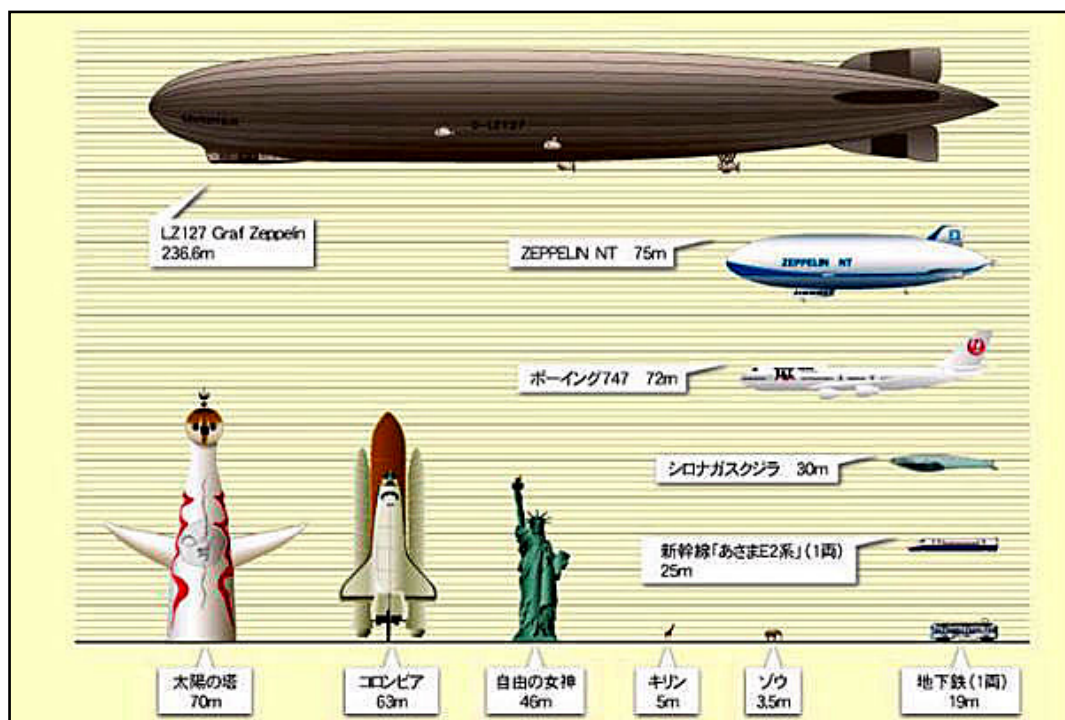


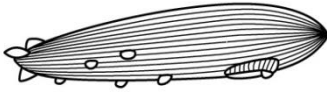
143 回 稲門フィラテリー切手教室 レジュメ

2018年7月7日

## ツェッペリン・カバー 立川 賢一



# ツェッペリン・カバー



立川 賢一(たつかわ けんいち)

所属の郵趣団体: (公財)日本郵趣協会

(JPS航空郵趣研究会、JPSパソコン郵趣研究会、JPS関東郵趣サロン研究会)  
(一社)全日本郵趣連合、ZEPPELIN STUDY GROUP (in Germany)、日本飛行船郵趣会



## 1. 飛行船と私

- 1) 海の生物資源を空から探索・調査・実験等を行うことの情報収集開始(1979年頃から)
- 2) 飛行船を観測ステーションとする有効性・効率性・作業性・経済性等の検討推進
- 3) ツェッペリンNT利用の可能性を検討(2000年に現地調査し、2005年から具体的準備にかかる)
- 4) 調査対象として大型海生ほ乳類(鯨類:スナメリなど)や海草類・海藻類、浮遊物等を選定
- 5) 上記の過程で、ツェッペリン飛行船が運送したツェッペリン・カバーに遭遇し、本格収集はじまる

★「ツェッペリン・カバー」はツェッペリン飛行船により運送された郵便物★

## 2. 飛行船とその発達史

- 1) ブイヤント航空機(LTA: Lighter Than Air Aviation)  
空気より軽い気体を詰めた気囊(エンベロープ、envelope)で、人・物を乗せるゴンドラを吊し、空中に浮かせ、移動・着陸できる航空機(気球、飛行船、ハイブリッド飛行船)
- 2) 航空機が使用した空気より軽い気体  
①熱空気、②水素ガス、③ヘリウム
- 3) 気球の種類  
①係留気球、②熱気球、③水素ガス気球、④ハイブリッド気球(熱気球+水素ガス気球)
- 4) 飛行船の種類  
①軟式飛行船→気囊1個で飛行船本体の重量中心部に直接ゴンドラを吊す  
②半硬式飛行船→気囊を竜骨(キール)に乗せて、ゴンドラを吊す  
③硬式飛行船→金属フレームで枠支えをした大きな気囊に複数の小気囊を入れ、操縦室や客室・荷物室等の専用ゴンドラを連結して吊す  
④全金属飛行船→アルミニウム合金等の金属で気囊を作成  
⑤準硬式飛行船→硬式飛行船に比べて気囊内の金属フレームが簡素
- 5) ハイブリッド飛行船の開発  
①熱気球飛行船→エンジンを搭載した熱気球で空中を容易に移動できる機能付加  
②ヘリコプター機能付き飛行船(重量飛行船)→ヘリコプターの回転翼を付加し、離着陸を簡便化した飛行船(例:イギリス、AIRLANDER、92m)

### 3. 飛行船切手、郵便印や搭載印など

- 1) 飛行船切手(航空切手、ツェッペリン切手、加刷切手、飛行船図柄の切手)
  - ①航空切手(飛行船により特定区間を逡送するための飛行船専用切手)
  - ②ツェッペリン切手(ツェッペリン飛行船で逡送する特別記念切手、または加刷切手(p7~8)
  - ③飛行船図柄の切手(飛行船の絵が描かれている切手)注:a)ツェッペリン切手はツェッペリン飛行船に搭載のない郵便物にも使用できた  
b)ツェッペリン搭載の郵便物にツェッペリン切手以外の切手も使用できた
- 2) 基地近郊の提携郵便局: 差し立て郵便印、到着印
- 3) 船内郵便局: 船内郵便局がツェッペリン飛行船に設置され、飛行中に船内で郵便印の押印を受けることができた
- 4) 到着印: ①飛行船基地近傍で提携している郵便局の到着印  
②飛行船から投下した郵便物を受け入れる郵便局の到着印
- 5) 搭載印: ツェッペリン飛行船搭載郵便物には、ドイツ発便とツェッペリン飛行船会社と連携した飛行航路の証明となる搭載印が押印された
- 6) 事故郵便等の証明印: ①逡送中止説明印、②飛行船事故の証明印

注: 南米便の飛行船は飛行機と連携し、提携郵便局での郵便物の受け渡しもあった

### 4. ツェッペリン・カバー登載飛行船(概要)とその周辺

#### ★ 主なツェッペリン・カバー搭載飛行船と運行期間等

- 1) 1785~1899 ツェッペリン・カバ-の前史(気球や飛行船で通信文が運ばれた)  
1785: イギリス、1859: アメリカ/ジュピター、1870: フランス/バロンモンテなど  
●フェルディナンド・フォン・ツェッペリン(1838~1917)
  - ★2) 1900~1925 LZ1~LZ120 **WWI(1914~1918)**  
陸軍所属: LZ 3~120...約40隻、海軍所属: LZ14~126...約70隻
  - ★3) 1924~1931 LZ126(Z. R. III/ロスアンゼルス) アメリカに譲渡
  - ★4) 1928~1940 LZ127(グラ-フ・ツェッペリン) 全長236. 6m  
飛行回数590(ドイツ国内、欧州、北米、南米及び世界各地に飛行)
  - ★5) 1936~1937 LZ129(ヒンデンプルク) 全長245m  
飛行回数65(北米と南米に飛行)
  - ★6) 1938~1940 LZ130(グラ-フ・ツェッペリン II) 245m  
飛行回数36(ドイツ国内飛行のみ) **WWII(1939~1945)**  
●フ-ゴ-・エッケナー(1868~1954)
  - 7) 1997~現在 ツェッペリンLT(全長75m、同型機体1~5号)  
(株)日本飛行船所属の飛行船はツェッペリンNT2号機
- その他:
- 8) 1911~1931 イギリス(メイフライ、23、R26~80、R100、R101...約28隻)
  - 9) 1923~1941 アメリカ(シェナンドア、R38、ロスアンゼルス(Z. R. III)、アクロン、メイコン、(TinShip/ZMC-2)...約5隻)

# ツェッペリン飛行船LZ1からLZ126に登載されたカバー(抜粋)



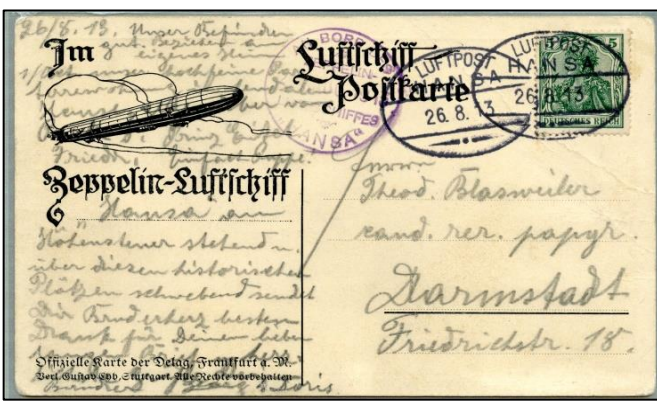
1900年7月3日 LZ1(128m)



1912年10月14日 LZ11(VIKTORIA LUISE、148m)



1913年7月8日 LZ17(SACHSEN、140m)



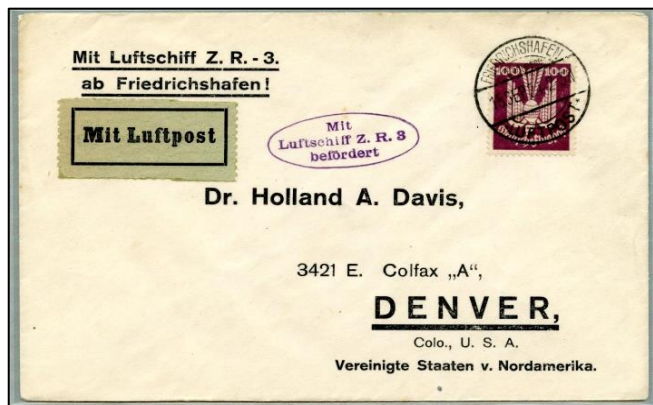
1913年8月26日 LZ13(HANZA、148m)



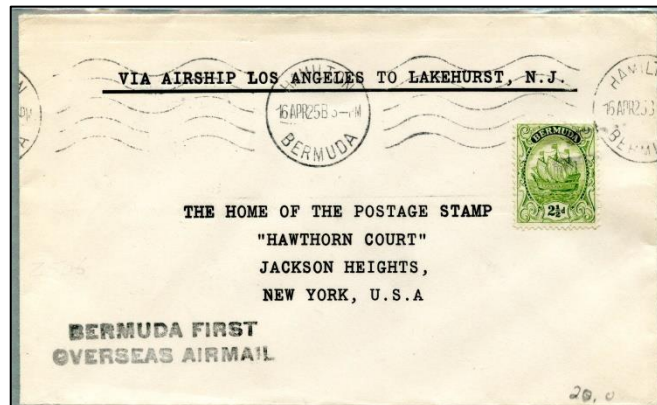
1919年9月13日 LZ120(BODENSEE、120. 8m)



1924年9月15日 LZ126(200m)

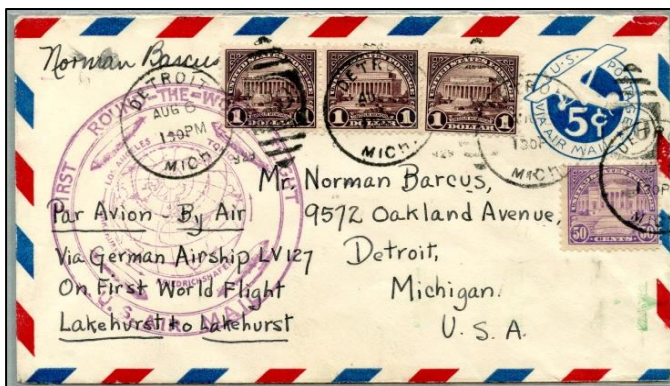


1923年9月15日 封書、LZ126(Z. R. IIIに改名)



1925年4月16日 Z. R. III(LOS ANGELES)

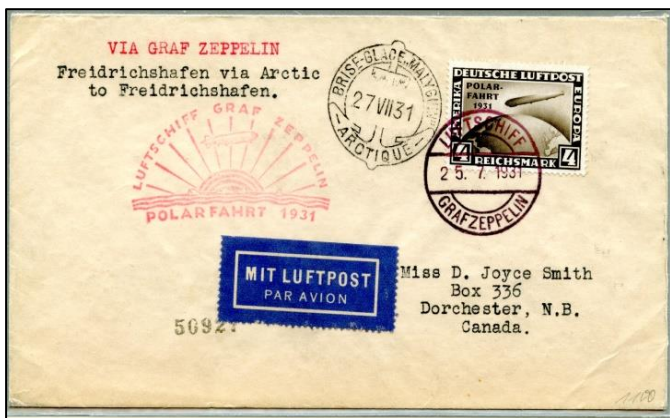
# 飛行船グラーフ・ツェッペリン(LZ127)に登載されたカバー(抜粋)



1929年8月7~29日 LZ127 アメリカ発世界一周飛行 はがき\$1.78 封書\$3.55



1929年8月15日~9月4日 LZ127 ドイツ発世界一周飛行 はがき7M 封書14M



1930年5月18~31日 LZ127 大西洋周回飛行

1931年7月24~31日 LZ127 北極圏飛行



1933年10月14~17日 LZ127 シカゴ博飛行

1937年5月3~8日 LZ127 最後のツェッペリン・カバー

# ツェッペリン飛行船LZ129とLZ130に登載されたカバー(抜粋)



1936年10月6日 LZ129 (HINDENBURG、245m) 北米飛行 1936年8月1日 ベルリンオリンピック



1936年4月1日 LZ129、第1回南米飛行、封書 1937年5月3日 LZ129 第1回北米飛行、中止便



1938年12月1日 LZ130 (GRAF ZEPPELIN II、245m) スデーテンランド飛行、投下された選挙宣伝ビラ



1939年7月22日 LZ130 BIELEFELD飛行 1939年8月20日 LZ130 MULHEIM飛行(最後の飛行)

**Luftschiff-  
Postkarte**



**ZEPPELIN NT**

**Erster Werkstatting  
des Zeppelin NT**

**D-LZFN LZ N07**

Initiator: May-Mugler



**BORISCELE  
ZEPPELIN**

**AM BORD DES  
ZEPPELIN NT**

**10 SEP 1987**

**LUFTSCHIFFER  
LZ N07**

**D-LZFN**



**165**

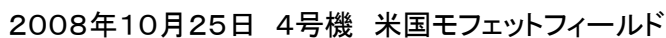
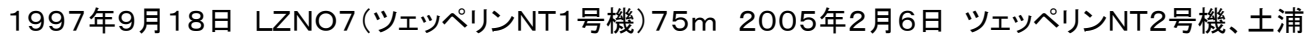
**19-9**

**97-12**

**MESSESTADT  
am Bodensee**

**00000088045**

**Herrn  
Scott Danneker  
Luftschiffkapitän  
Leimackerstr. 10  
88074 Meckenbeuren**



# グラーフ・ツェッペリン号の切手(1)

「世界の切手コレクション(168号) 切手の雑学 収集家の秘蔵コレクション(5)」  
(アシェット・コレクションズ・ジャパン株式会社、2017)より

## 収集家の秘蔵コレクション(5)

1928年に初飛行した飛行船LZ127は、「グラーフ・ツェッペリン号」の愛称で親しまれ、この飛行船で運ばれた郵便物は「ツェッペリンカバー」と呼ばれて収集家から人気を集めた。今回は、飛行船の切手を収集している立川賢一氏のコレクションのなかから、グラーフ・ツェッペリン号の切手を紹介していく。

### グラーフ・ツェッペリン号の切手



ドイツ / 1928年 / 4マルク

その昔、空に浮かび遠くの地に旅する夢を追いかけて、飛行船の建造のため多くの先人たちが人生を競った。そして1900年、ドイツのツェッペリン伯爵が、硬式飛行船の初飛行に成功した。その後、戦争などにより一時中断を余儀なくされた飛行船建造と運行の事業は、フーゴー・エッケナー博士に引き継がれ、40年間で約130機ものツェッペリン型飛行船が建造されている。船体の長さが236.6mもある巨大なツェッペリン型飛行船(LZ127)は、愛称「グラーフ・ツェッペリン号(Gツェッペリン号)」として人気を得て、1928～1937年まで世界中から依頼される大量の郵便物を積載した。左に示したのは「ツェッペリンカバー」で、1929年の世界一周飛行において、8月15日にドイツのフリードリヒスハーフェンで搭載され、霞ヶ浦海軍航空隊基地で降ろされたあと、8月20日に大阪郵便局に到着した封書だ。Gツェッペリン号が描かれたドイツの4マルク切手が貼られている。

#### Profile

立川賢一(たつかわけんいち)：1944年愛媛県生まれ。東京大学海洋研究所で水産生物の生態研究と資源変動の解析に従事。長年にわたり水生生物や飛行船の切手類を収集。現在日本郵趣協会の理事と普及委員会委員長などを担当。共著、記書に「アナウサギの生活」「航空と郵便」などがある。



世界で最初に発行された、2種類のツェッペリン航空切手のうちの一枚。2マルクのはがき用の額面で、地球を越えるGツェッペリン号をイメージしたデザインとなっている。発行枚数は50万枚だった。この切手は、Gツェッペリン号の第1回北アメリカ飛行の郵便物に、初めて使用された。  
ドイツ / 1928年 / 2マルク



ヨーロッパ～大西洋周回飛行の際、南アメリカからのGツェッペリン号の復路便に積載する郵便物専用に行発された準公式切手。西方に向かうサンタマリア号の上空を、東方に飛行するGツェッペリン号が描かれており、ヨーロッパ行き専用の準公式切手に「Graf Zeppelin」と「U.S.A.」が加刷されている。  
ブラジル / 1930年 / 20,000レイス



Gツェッペリン号の第1回南アメリカ飛行の帰路、アメリカに寄航することを記念して、アメリカは3種の航空切手を発行した。上の切手には、大西洋を東方に飛行している風景が描かれている。また中央の切手には、ヨーロッパとアメリカ間を西方に飛行している風景、下の切手には地球を背景に雲のなかを飛行する風景が描かれている。  
アメリカ / 1930年 / 65セント、1ドル30セント、2ドル60セント

# グラーフ・ツェッペリン号の切手(2)

「世界の切手コレクション(168号) 切手の雑学 収集家の秘蔵コレクション(5)」  
(アシェット・コレクションズ・ジャパン株式会社、2017)より



旧ソ連の航空路地図が書かれた地球図の上空を飛行する、Gツェッペリン号が描かれた切手。平版の一種であるコロタイプによりセピア色で印刷されており、同じ图案で茶紫色の無目打切手のものも発行されている。  
旧ソ連／1931年／50コペカ



リヒテンシュタインから発行されたツェッペリン航空切手。これは封書用の2フラン切手で、ヴァルナ渓谷上空を飛行する姿が描かれている。Gツェッペリン号は、北極圏飛行の際の寒さに備えて、試験的にリヒテンシュタインのファドゥーツからスイスのローザンヌへのアルプス越えの飛行を行っている。  
リヒテンシュタイン／1931年／2フラン



Gツェッペリン号の北極圏飛行の郵便物のため、1931年発行の切手に「POLAR-FAHRT 1931」と加刷した航空切手。このほかにも、群青色の2マルクと、茶色の4マルク切手が発行された。  
ドイツ／1931年／1マルク



砕氷船マリジンの上空を飛行するGツェッペリン号と、それを見上げるシロクマが描かれた切手。これは、Gツェッペリン号の北極圏訪問飛行のために発行された。この飛行の際、マリジン号を介して郵便物の交換が行われている。  
旧ソ連／1931年／1ルーブル



1932年にパラグアイからの帰路便専用に使われた切手。当時としては珍しく三角形しており、額面と色が異なる5種が発行された。4ペソ切手と16ペソ切手は第1回飛行、20ペソ切手は第2回飛行、8ペソ切手と12ペソ切手は第3回飛行で使用されている。  
パラグアイ／1932年／8ペソ



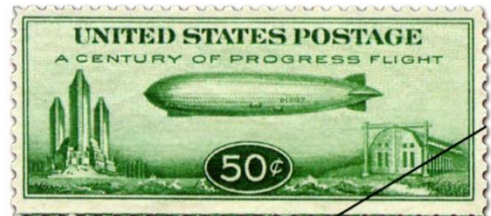
イタリア飛行の際に発行された航空切手。イタリアの遺跡を眼下に飛行するGツェッペリン号が描かれている。全6種で、この切手にはローマにあるガイウス・ケステイウス・ピラミッド遺跡が描かれている。  
イタリア／1933年／3リラ



Gツェッペリン号のイタリア飛行の際に、異なる色で6種発行された加刷航空切手のうちの一枚。サンマリノの山脈が描かれた3リラ切手に、Gツェッペリン号のシルエットが加刷されている。なおこの額面は、南アメリカ各国への封書の郵便料金である。  
サンマリノ／1933年／20リラ



Gツェッペリン号のイタリア飛行の際、ギリシャが発行した3種の航空切手の一枚。アクロポリス上空を飛行するGツェッペリン号が描かれている。なおGツェッペリン号は、ギリシャを飛行しなかったため、ギリシャで差し出された郵便物は、ローマから飛行船に載せられたのち、ドイツやブラジルに配送された。  
ギリシャ／1933年／120ドラクマ



この航空切手には、ドイツのフリードリヒスハーフェンの格納庫を出てシカゴ万国博覧会を訪問するため、大西洋を西方に飛行するGツェッペリン号が描かれている。しかし実際は、ブラジルのレシフェからシカゴを経て、フリードリヒスハーフェンに向かった。  
アメリカ／1933年／50セント



1929年にアメリカで押された、世界一周飛行の証明印。



1930年にアメリカで押されたヨーロッパ～大西洋周回飛行の証明印。



1931年にドイツで押された、北極圏飛行の証明印。

## 搭載証明印

ツェッペリン航空切手は、Gツェッペリン号に積む郵便物専用が発行された。しかし、特定の飛行便を除けば郵便料金を満たせば普通切手であっても通用した。そこで、郵便物がGツェッペリン号に搭載された証明のため、飛行便ごとに異なる搭載証明のスタンプが押された。

ただし、このスタンプは郵便印による消印ではない。そのため、Gツェッペリン号に搭載された郵便物であっても搭載証明印が押されていない郵便物もある。